

海外登山記録

カラコルム K2南東稜

日時:1977年6月～8月

メンバー:塚本圭一(学術隊長)、他36名(日本山岳協会 K2登山隊)

概要: 日本山岳協会による K2登山隊に塚本が学術隊長として参加。7名が登頂を果たし、K2を第2登した。

記録

1977年に、総指揮:吉沢一郎、隊長:新貝勲、この隊はヒンズークシュ・カラコルム会議が基盤に編成された。隊員は37人+パキスタン隊員ということで、週刊誌は「あれは大金かけた修学旅行登山」と報じた。ヒンズークシュ・カラコルム会議はかなり高度な山の研究者集団で、そのメンバーには探検家、登山家、学者、研究者が多く、それらの人たちの行動も世界に通用するものであった。先ほどの週刊誌の言を借りれば、「自称カラコルム研究者」ということになるが、やはりこれはやっかみである。

K2への挑戦は1902年の国際隊にはじまり、1909年イタリア、1938年アメリカ、1939年アメリカ、1953年アメリカ、1954年イタリア:南東稜より初登頂、1960年国際隊、1975年アメリカ、1976年ポーランド、1977年日本隊:7名登頂。

登山界では「第2登はイタリア隊・ルートではなく別ルートで」という声も高かったが、1976年の試登隊の報告では「登頂を第一に考えるならばイタリア隊・ルートしかない」と判断した。吉沢総指揮、新貝隊長も「お金を使うのであるから、出来るだけ多くの隊員に登ってもらいたい」という決断であった。

学術隊長として出来ることは、長いアプローチのなかで出来る限り何かを見て欲しいという考えを持って、隊員と話し合った。アプローチではすごい人数が通過し、ベースキャンプの滞在も長くなる中で、いかにゴミを減らすか、持ち帰るかを各係から計画を提出してもらい、それを再検討して実行するようにした。ベースキャンプでは気象観測もやっていたが、氷河上の観測場を見て、口の悪い森田勝隊員は「おもちゃみたいですね」と言った。

この時の観測データは帰って、京大防災研の中島暢太郎先生にお見せしたら、「すばらしい」と褒めて頂き、先生は該当高層天気図と合わせて見違えるほどうまく解析結果を示された。

この時、私は「バルトロ氷河周辺の生物生態について」というレポートを書いた。植物については、北村四郎先生(1964)のレポートと私の撮影した植物写真と対応させた。5000mを超えるベースキャンプでも *Parnassius delphius* デルフィウスウスバシロチョウ が飛来してくれたのには感動した。

K2登山に参加して学習したこと、考えたことは多く、私の人生の後半に大きな影響を与えたと思う。私の著書『K2より愛をこめて』の終わりに、「私たちはもうどんなことにもおどろかなくなっています・・・」と書いている。

(記/塚本)

